

【要約版】

令和4年度 第3回高島市図書館協議会

開催日時：令和5年2月20日（月）15時30分～17時20分

開催会場：高島市立今津図書館 視聴覚室

出席：國松会長、平松副会長、嶋崎委員、山本（富）委員、桂田委員、山本（恵）委員、梅村委員、吉川委員、山本（永）委員

事務局：玉木館長、志村主監、原田

欠席：福原委員、桑原委員、田川委員、井上委員

1. 会長あいさつ

・3年前の今頃、新型コロナの流行が始まった。関西圏はそれほどではないが、関東圏ではマスクなしでは入館できない。やはり図書館運営が、指定管理業者に任されていることも一因かもしれない。新年度は徐々に以前の状態を取り戻すことになるので、職員のみならずにはがんばってもらいたい。

以下、協議事項内容と質疑応答等。（○＝報告内容 ●＝委員意見 ⇒回答）

2. 協議事項1：令和4年度12月までの図書館運営状況について

○当日配布資料「■市内各図書館（室）の来館者数・貸出冊数について」は、P4.5の職員意見を2項目にまとめたもの。

○P14～18の円グラフについて。

P14「令和3年度館別旧町村別 貸出冊数割合」とP16「令和3年度館別旧町村別 貸出人数割合」は、以前からの「どの程度地元市民が地元図書館を利用しているのかが分かる資料を」というご意見をもとに、令和3年度（長期の臨時休館がなかった年度）を例に抽出してみたもの。今津図書館を例に見てみると、今津町在住の方が今津図書館を利用されている割合が、冊数58.6%、人数63.3%ということで利用者の大部分がご近所の方ということがわかる。特に地域館については、65%～85.9%という数字が出ていることから、さらに地元館を利用されている方が大半であると言える。

注目したいのは、令和4年12月の新旭図書室と高島図書室に限定した抽出データの円グラフ。（P15,17）この両館は、12月から長期の臨時休館に入った安曇川図書館の両サイドにある図書室で、安曇川在住の市民の利用が、新旭図書室に至っては6.7%から27.8%と4倍に伸びており、別の館に移動して利用していることがわかる。

(続き)

P18「令和3年度館別年齢別 貸出冊数割合」は、どの年代層が図書館を使っているのかがわかる。今津図書館を例に見てみると、60代、70代、80代以上の利用者がほぼ半分を占めていることがわかる。それ以外の館は、概ね、各年代層がバランス良く利用している。

P19の表は、前回國松会長のお話しの中にあつた、サービス指標に高島市のデータを入力したもので、比較対象としては野洲市のHPからとつたデータを入力した。今回初めて抽出したもの。

●P18のグラフを見て、朽木の利用が高齢者だけじゃないっていうのがわかつて意外だった。子育て世代はそんなに利用していないと思っていた。

●同じく80代以上が0%というのも・・・

●やはり、免許返納すると自力でなかなか移動できなくなる。なので、高齢者のサロンの場に本を持って行っている。

●70代まではなんとか車も乗れるので。80代以上は、どこも減っている。

●P4.5の一覧で、高島、朽木は本の森探検で利用が増えたと書いてあるが、どのくらい来ているのか？朽木は大津市の小学校かも見学があつたようだが、これまでにそんなことがあつたのか？

⇒ 職場体験で大津市の葛川学区から中学生が来館することもあつたが、その学区以外からの見学は初めてではないかと思われる。

●P14のグラフで高校生の利用が0%というのが気になる。また今津の小学生6%は少ない。将来の利用者に焦点を当てて、何か働きかけをできるといい。

●高校生の利用が0%なのは、高校の図書館が充実しているからではないか。実際、地域の図書館で借りるよりも、やっぱり借りたい本は、学校で借りてるからとも考えられる。

●高校については、図書室だけでは十分にまかなえていないはず。YAは圧倒的に公共の方が多い。高島地域の高校は電車での通学、また市外からの通学もあり、休日に公共の図書館まで来られないのがネックでは？それでも湖西地域の高校は比較的、公共を利用している地域だが、数字に表れにくい。

●「子ども図書館事業検討」っていうのが、県の来年度予算で決まったみたいなことをニュースで見ただけだけど、市としては何かするのか？

⇒ 県からの子ども図書館に関するアンケート調査はあり、その結果が送られてきて説明資料を読んだが、具体的にはまだはっきりしていない様子。

(続き)

●全体の^{すうせい}趨勢としては減少していることに変わりはない。何とか手を打ってほしい。一人当たりの蔵書冊数が多すぎる。そのため回転率や鮮度が悪くなっているのをここを改善してほしい。これだけの蔵書冊数があるのなら、充分ではないかと思われる。古い本を整理することで、本の新鮮さが目立つ格好にすると利用が増えると思う。

●古い年代の物。例えば課題図書なんかは複本がたくさんある。利用されなくてすべて書庫に入ってしまっているような本は整理対象にするとか。

●複数の町村が合併し、もともと独立した図書館、図書室があったので、どうしてもかなりの重複がある。近江八幡市も以前思い切った除籍を行った。(年に万冊単位で)長浜市は、1市8町が合併しており、重複本が非常に多かったので、意識的にどんどん除籍している。管理上、身軽にしている。館としての方針を出す必要がある。

●高島市立の廃棄基準が生きていないから(蔵書が多いのか)?

●基準はある。でも職員がしないから。大変な作業だろうが、図書館の命運を分けるものだと思うので。

⇒ 昨年度は少し除籍したので、購入冊数よりも除籍冊数の方が多くなっている。

協議事項 2：令和 4 年度蔵書点検結果について

○今年度は、今津、安曇川図書館の休館中と地域館の通常休館を使って実施。

結果は、P20 のとおり。今年度は不明本の数が少なかったため、タイトルも挙げている。

●こんな数はありえない。嘘ではないのか? 少ないのはありがたいことだが。

●非常に優秀だと思う。そういう意味では、利用者のモラルが一定あるのだということかもしれない。切り抜きなどは、日ごろのチェックをお願いしたい。

その他(報告等)

①先回(第2回)に提案した地域館の開館時間の変更についてのその後。

○協議会の中でも、一人で勤務すること自体がどうなのかとのご意見をいただいていたが、できるだけ一人で勤務しない方向で再度協議するよにということになった。人を雇うのならお金も必要になってくる。それが無理であれば、時間の変更ということを検討するということになった。

(続き)

●とりあえず来年度は現状のまま？

⇒突然、人を雇いたいといっても予算がないので。

●複数で対応するのがいいという意見は協議会でも出ていたが、人をつけるのは難しいということだったので、変更もやむなしだった。しかし再度検討ということであれば、また一年先に延びてしまうので、図書館側の人の配置が大変だと思う。

とにかく職員の安全を確保してほしい。

②その他の意見

●図書館は、利用が減ってもいいと考えているのか？そういうふうに受け取れる点が3点ある。

1つ目は、公共施設を半分にするプランで安曇川と今津館だけになると危惧しているが、図書館の職員は減ってもいいと思っているのか、利用を増やす努力をしていない。仮に高島市の図書館が日本一というくらいになると、いくら半減プランがあってもそうはならない。職員も図書館が減れば職場を無くすことになるのに、どうしているのか。

2つ目は、図書館協議会の日取りが、市議会の最中に設定されるのか？教育長などに理解してもらうためには、協議会の場に来てもらったほうがいいのに、議会開催中に日程を持ってくるのは、作為的なものを感じる。

3つ目は、毎年の運営方針について、年度を超えた形での高島市立と書架の理念みたいなものを確立しなければ発展はない。館長が毎年交代しては、理念が受け継がれていかないのに、着手しないのか？

●県内で約半分の自治体が、図書館の基本計画づくりに着手している。これはどこかが作ってくれるわけではなく、図書館が作らなければいけない計画。少ない職員の中でそういう発案をして作るというのは非常に難しいと思うが、これから少しずつ、協議会も協力して3年、5年10年先の高島の図書館をどうするのかという理念なんかも含めて考えていかなければならないと思う。先々の計画があって、始めて教育委員会や行政の中に、図書館サービスの位置づけが決まってくると思うので、委員の皆さんも協力していただきたい。